

2026年8月7日行政経営評価委員会資料

令和7年度デジタル田園都市国家 構想交付金(旧制度)活用実績報告 【スポーツクライミングのまち龍ヶ崎】

健康スポーツ部 スポーツ推進課

(参考資料)令和7年度「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」実施報告

国の地方創生を推進する交付金を令和6年度より活用し、「スポーツクライングのまち龍ヶ崎」の取組を実施。

令和6年度
デジタル田園都市
国家構想交付金
(地方創生推進タイプ)

令和7年度
新しい地方経済・
生活環境創生交付金
(第2世代交付金)

令和8年度
地域未来交付金
(地域未来推進型)

令和7年度の取組



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備

令和6年度に設置した基本構想策定審議会や基本構想策定過程で開催したワークショップに参加いただいた団体を中心に、産官学を巻き込んだ会議体を構築。

各部等の次長

流通経済大学

学校長会

商工会

観光物産協会

青年会議所

たつのこまちづくりパートナーズ

クラブ・ドラゴンズ

常陽銀行

関東鉄道

茨城県山岳連盟

新都市ライフホールディングス

スポーツビズ

アキオズカンパニー

・構成員の紹介
・事業の背景、目的の共有
・個別事業の実施方針の共有、意見交換
・調整会議、分科会の令和7年度の開催スケジュール案の提示

・個別事業の進捗状況の共有、意見交換
(学校連携施策/他自治体視察/体験会開催/
事業者向けワークショップ開催/プロモーションコンテンツ制作など)

・個別事業の実施内容の共有、意見交換
・AKIYO's DREAM with RYUGASAKI、
アレンジ企画イベントの開催結果の報告
・次年度の取組方針を提示

8月

調整会議

9月

分科会

10月

11月

調整会議

12月

分科会

令和8年1月

2月

分科会

3月

調整会議

【教育・学習】

・学校連携施策案の方向性、進め方の共有
・定期的な体験、練習機会確保の意見交換
・学校における体験機会開催素案の提示

【プロモーション】

・プロモーションコンテンツのイメージ共有
・PR動画に組み込む場所、発信チャネルの意見交換
・コンテンツデザイン、設置場所の意見交換

【教育・学習】

・11月開催の体験会の実施状況の共有
・他自治体の視察内容の報告
・定期的な体験、練習機会確保の案、方向性を提示

【プロモーション】

・前回のアナログ、デジタルのコンテンツについての意見交換内容の共有
・次年度以降のプロモーション方針の意見交換

【教育・学習】

・2月の大会、アレンジ企画の実施内容を報告
・体験機会の段階に応じて求められる設備の提示
・次年度以降の教育・学習の進め方を提案

【プロモーション】

・「クライミングまいりゅう」ロゴ活用実績の報告
・プロモーションコンテンツの活用実績の報告
・次年度以降のプロモーション方針の提示

○親子体験会

ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナにて、野口さんをはじめとしたトップクライマー3名を招いて体験会を開催。



○市産業祭いがっぺ市

にぎわいイベントの開催に合わせて体験ウォールを設置、主に未就学児や小学生が絶え間なくボルダリングを体験。



○肋木クライミングウォール

3つの小学校の肋木に簡易クライミングウォールを設置し、体育のサーキットトレーニングなどで活用。



【理想像】龍ヶ崎市に住むすべてのこどもが身近にスポーツクライミングに触れる環境があり、実際に体験する機会を有している。

1stステップ (在学中に1回体験)

- ・学校の授業を活用して、市内のこどもたちが最低1回は体験できる機会を整える。
- ・移動式ウォールの学校持込み又はニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用が全小中学校で採られている。
- ・市内の保育所等に簡易的なウォールが存在し、興味のあるこどもが遊べる環境をつくる。

2ndステップ (年に1回体験)

- ・学校の授業に導入し、市内のこどもたちが定期的に体験できる機会や指導環境を整える。
- ・授業外での児童生徒の利用促進に向けた、児童生徒用の登り方マニュアルを展開する。
- ・移動式ウォールの学校持込み又はニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用を、全小中学校が持続している。

3rdステップ (通年で体験)

- ・興味を持ったこどもたちが、定期的に専門家から指導を受けることができる。
- ・体験しないこどもでも、道徳や図工、美術の時間などを通してスポーツクライミングを感じることができる。
- ・児童生徒の身近な環境で通年でスポーツクライミングを体験できる環境をつくる。

令和8年度の実施

ニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動して体験会開催

学校へウォールを持ち込んで体験会開催

市公式マスコットキャラクター「まいりゅう」とスポーツクライミングをかけ合わせた「クライミングまいりゅう」ロゴをワンポイントに、アナログ・デジタルのプロモーションコンテンツを制作。

RYUGASAKI
CITY OF
SPORT CLIMBING



スポーツクライミングのまち龍ヶ崎



「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」を“知る”コンテンツの発信

R7制作コンテンツの継続活用(横断幕・のぼり・オブジェ・動画の露出)

- ・令和7年度に制作した横断幕、のぼり、オブジェを活用するほか、動画を市内外の多くの人の目に触れさせる。
- ・「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の動画を市内外に発信することで、大会や本市に対する関心度を向上させる。

各種媒体を活用した情報発信

- ・市内クライマーの活躍紹介、各アクションの取組進捗状況などを市公式HP、スポーツ推進課SNSなどで発信する。特に、SNSについては拡散力を生かすため積極的に活用する。
- ・市外在住者向けの情報発信サイトなどの媒体において、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を紹介する。

民間事業者への情報提供及びロゴ活用の協力依頼

- ・「クライミングまいりゅう」ロゴなどを一般の方も利用できるようにする仕組みづくりをし、協力企業は市HPで紹介するなど、事業者メリットを検討する。

スポーツクライミングを“体験する”コンテンツの機会づくり

市内イベントと連携した体験機会の拡大・拡充

- ・市内で開催される季節イベントやスポーツイベントと連携し、ウォールを設置する。
- ・イベントのにぎわいの中で気軽に体験できる仕組みをつくり、普段スポーツクライミングに馴染みのない方や親子連れの体験を促す。

スポーツクライミング体験への企業巻き込み

- ・市内の企業や団体と連携し、従業員やその家族を対象としたクライミング体験会や交流イベントを開催する。
- ・社員や家族と一緒に体験できる場を提供しつつ、スポーツクライミングにちなんだノベルティコンテンツの配布などを行う。

ノベルティコンテンツなどを活用した普及・PR連携

- ・取組のロゴやクライミングをモチーフにした商品、ノベルティ、グッズなどを制作し、市内飲食店や商店、イベント会場で配布、販売する。

事業者向けワークショップの開催などをきっかけに、スポーツクライミングにちなんだ商品開発につながったほか、高校生の地方創生ワークショップでは、今後活用が期待されるキャラクター「オチナイ」が誕生。

サウナハット

Tシャツ



ホールドを模したスコーン



龍ヶ崎市SDGsヒーロー「オチナイ」



市内事業者に対する支援を実施するとともに、継続的に市内事業者からのサービス・商品開発などが生まれるような支援のあり方を検討

開発ニーズを有する事業者の発掘

開発支援

情報発信

関連サービス・商品のプロモーション支援

- ・関連サービスや商品などを開発することにメリットを感じてもらうため、事業者の名称や取組をPRできるような手法を検討する。
- ・市で開催する大会やイベントなども販路、サービスや商品の認知の機会となるよう積極的なブース出店を試みる。
- ・将来的にふるさと納税の返礼品として取り扱うことも目指し、販路の拡大を図る。

事業者に向けたスポーツクライミング関連の情報発信

- ・スポーツクライミングに関連するサービスや商品などが継続的に市内から生まれるよう、スポーツクライミングに少しでも関心を有する事業者に対して、関連サービスや商品の開発実績、スポーツクライミング関連の情報を発信していく。

○市内エントリー者向け練習会

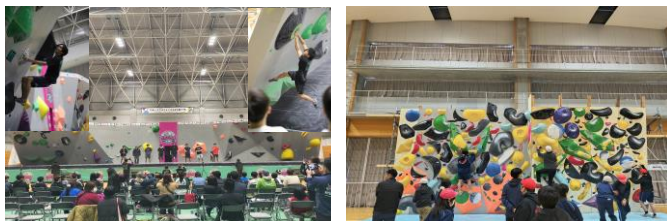
大会共催者の野口さん指導のもと、市内競技者のモチベーション向上・スキルアップを目的に実施。



○アレンジ企画イベント

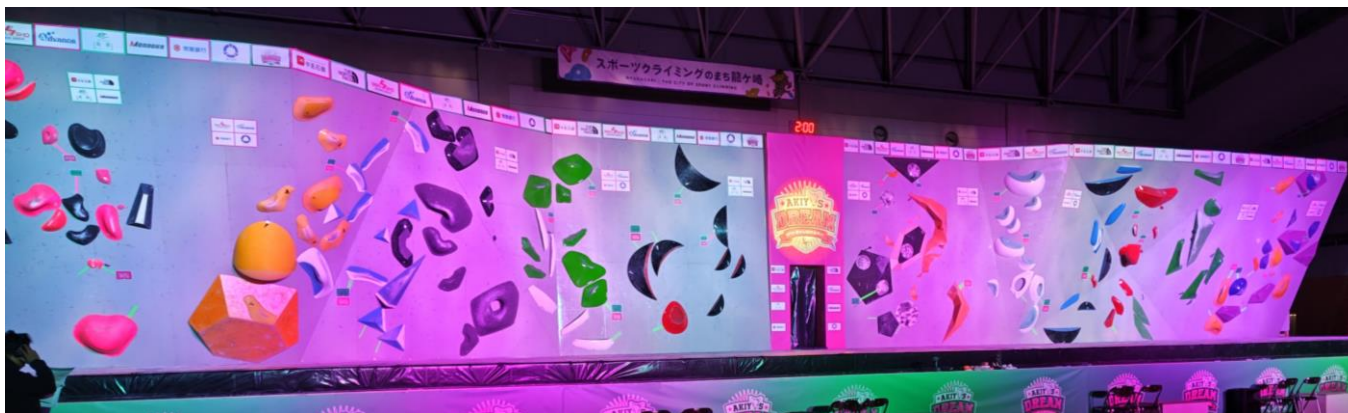
大会開催後に、大会環境を生かして幅広い層の方が楽しめるイベントを開催。

- ・日本男子トップ選手シミュレーションコンペ
- ・ボルダリング体験ラリーイベント
- ・シミュレーションコンペ課題チャレンジ



○AKIYO's DREAM with RYUGASAKI

全国各地やアジア圏から競技者が来訪。二度目の開催となった令和7年度大会では、選手を応援するハリセン、来場者向け体験ウォール、ゲストクライマーをフレームデザインに用いたフォトスナップ、龍ヶ崎中吹奏楽部によるオープニングセレモニーの演奏、ゲストクライマーによるデモンストレーション、「龍ヶ崎市SDGsヒーロー」お披露目会といった新たなプログラムを企画し、令和6年度のキックオフイベントを上回るにぎわいを創出。



○ふるさと納税制度の活用

・ふるさと納税

令和7年9月から活用:3,504,000円(令和7年度実績)

・GCF(ガバメントクラウドファンディング)

令和8年1月5日から3月31日まで実施:1,060,000円



○施設整備の方向性を整理

小規模施設(数百万円～1千万円程度)

幅広い年代がスポーツクライミングを楽しめる受け皿



現状

ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナや森林公園に常設のウォールがあるほか、イベントなどで利用可能な組立式の体験ウォールを保有しており、未経験者が体験する受け皿は一定存在する。

現状を踏まえた整備の考え方

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を市内により浸透させていくためには、スポーツクライミングに興味関心を持ってもらうために、幼少期からクライミングの動作を体験できる環境づくりやニューライフアリーナ龍ヶ崎のスクール運営環境の拡充、中級者以上も利用する小規模設備の整備が必要となる。

整備を検討するにあたっての方向性

未就学年代の興味喚起のため保育所・幼稚園などへの簡易ウォールの設置、ニューライフアリーナ龍ヶ崎などのスポーツ施設に初心者から中級者以上も楽しむことができる環境づくりを進めていく。

中規模施設(数千万円規模)

市内・近隣地区の競技者が集まり、トップ選手まで成長する拠点



現状

つくば市などの近隣市の車で30分程度のエリアに民間ジムがいくつか存在するが、市内には存在せず、ニューライフアリーナ龍ヶ崎のスクール出身の児童は市外のジムを練習拠点としている。

現状を踏まえた整備の考え方

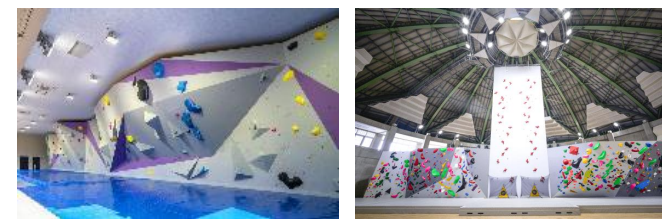
「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の市内外の認知度を向上させていくためには、スポーツクライミングを定期的に体験や練習ができる環境の整備、指導者を備えた地域クラブの創設、大規模大会レベルの規模には至らないものの、練習の成果が発揮できる機会の確保が必要となる。

整備を検討するにあたっての方向性

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の一層の推進のためには、小規模施設だけではなく中規模以上の施設を整備することにより、市内での体験普及や競技者志向のクライマーを取り込む必要がある。しかしながら、施設整備にはインシャルコストだけでなく継続的なランニングコストが発生するため、行政主導による整備は現実的ではなく、行政支援も想定に入れた民間主導による施設整備の可能性を検討。

大規模施設(数億円規模)

大規模大会の会場として市外への発信、にぎわいを創出する拠点



現状

公共施設を例にすると、県内では中規模レベルとして鉾田市に施設が、関東圏では葛飾区に中～大規模レベルの施設が存在するが、ボルダー・リード・スピード3種目の大規模大会を開催できるレベルの施設は存在しない。

現状を踏まえた整備の考え方

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」が全国的に認知されるためには、上級者やトップレベルの選手が練習できる競技環境の整備、ボルダー・リード・スピード3種目の設備整備、まちづくりの拠点となる複合的機能を有し、市外に対して龍ヶ崎市のPRにつながる大規模大会を開催することができる環境整備が必要となる。

【KPIの進捗状況】(参考資料P38～43)

事業開始前

令和6年度

令和7年度

令和8年度

採択期間後
目標値

※ 上段は国交付金を申請した際の目標値、下段は各年度の実績値(前年度比)

KPI①
地域の人口・世帯数

75,156人

▲230人
(74,926人)

▲715人
(74,441人)

▲200人
(74,726人)

▲651人
(73,790人)

▲150人
(74,576人)

-

74,576人

KPI②
スポーツイベント
の参加者数

5,141人

+250人
(5,391人)

+1,670人
(6,811人)

+500人
(5,891人)

▲618人
(6,193人)

+750人
(6,641人)

-

6,641人

KPI③
たつのこアリーナボルダ
リングウォール利用者数

2,862人

+500人
(3,362人)

▲283人
(2,579人)

+200人
(3,562人)

+551人
(3,130人)

+200人
(3,762人)

-

3,762人

KPI④
事業に参画する団体数

0団体

+10団体
(10団体)

+15団体
(15団体)

+10団体
(20団体)

+12団体
(27団体)

+10団体
(30団体)

-

30団体

 官民連携調整会議

令和6年度に立ち上げた官民が連携した会議体を引き続き運営し、各テーマ・アクションの深化や事業自走化に向けた検討を行う。

 教育・学習

学校授業への試行的導入や民間ジム体験会を開催するなど、新たな体験機会を創出し、学校授業の継続的な実施手法を調整する。

 プロモーション

既存コンテンツの有効活用や市民・事業者による発信機会創出につながるコンテンツを提供し、取組関心層の応援・拡散を促進する。

 産業振興

スポーツクライミングにちなんだサービス・商品開発の促進や事業者の課題把握と支援ニーズをもとに開発支援を検討・展開する。

 にぎわい創出

全国から競技者が訪れ、この事業を象徴するユースクライミング大会を開催するとともに、継続開催に向けた仕組みの構築を図る。

 環境整備

地域おこし協力隊の確保、資金調達の実施、小規模施設の整備、民間施設の誘致検討を行い、自走化に向けた展開を図る。

 競技者支援

支援ニーズ調査を実施し、競技者の属性に応じた効果的な支援内容や支援提供方法などの検討を行い、支援制度案を整理する。

上記に掲げる基本構想の6つのテーマの推進のほか、令和6年度に実施したアンケートをベースとした調査を実施し、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の浸透状況や効果を把握します。